

令和六年度
入学試験問題
解答用紙

国語

国語総合(近代以降の文章)・現代文B

a	渦
b	状態
c	想像
d	繊細
e	膨大(膨大)

問一

知覚や感覚は人間に生まれつき備わった能力だと一般的に思われていること。

問二

開眼手術を受けて眼が見えるようになった人が眼で見るだけという条件の下で、立方体と球を見わけることができるかという問題。

問三

それは、開く提である。

開眼手術を受けた人が眼を開いても眼の前に拡がるのは全くの混沌とした世界なので、その人が手術後初めて眼を開いて立方体と球を見ても、両者を見わけることができないということ。

問四

立方体と球の視覚的な現れに入りこんだ触覚経験が立方体と球の触覚的な現れとの何らかのつながりにより、立方体と球の視覚的な現れをそれらの触覚的な現れと関係づけられるから。

問五

すべてが逆さに見える段階から、一部のものが正立して見える無秩序の段階を経て、すべてが正立して見える秩序だった段階に至る。

問六

分節化

交響曲の指揮者は膨大な数の音の響き合いとの交わりを通して聴覚をうまく働かせる能力を習得し、その能力を用いて膨大な数の音の響き合いから刺激を適切に探り出すことによって得られる。

第二問

問一 村長

食糧供給の代償として手伝わせている軽い百姓仕事。

五代

銃後の国民として増産の役に立つための義務。

問二

ただ単調なだけで、自分にとって意味の分からない作業を強いられるという側面。

問三 国家の産業戦士として神経を使う単調な作業ばかりの辛い生活を強いられ、勉強をしたくなり無理をして本を読んだために体を壊すに至り、動員生活に嫌気がさしたから。

問四 戦争で学生生活を奪われた草村の苦しみは、甘やかされて育ってきた自分たちにも無関係ではないということ。

問五 表向きは作業が生徒たちのためにもなると笑って言いながら、その笑顔に子どもたちをこき使う横暴さを感じてしまったから。

問六 理不尽を強いられた生活の中で自由に活動しようとする一方で、それがうまくやれない未熟さがあるという面。

第三問

問一 1 灰色がかった緑の苔むした安山岩 不揃いの石を重ねた積み方
崩れ残った石垣

2 心がなごむ。ほっとする。 (以上十五字)

問二 生活者のおばさんに掛けられた言葉をきっかけに、小説家として実直に創作しようという気持ちが高ぶったから。

問三 無機的なスーパーマーケットに比べて、八百屋では生き生きとした様子がみられるということ。

問四 朝のすがすがしさや昼の賑やかさとは趣を異にする、静寂な闇の中の八百屋で並んだ野菜果物類が明りに照らされ、それ自身が生命の光を放っている様子。

問五 濡れた苔が金色に輝く (以上十文字)

問六 少しずつ古い町並みが見失われていく中でも、石垣や店に昔ながらの生き生きとしたありようがかろうじて残され
ているから。

(以上十文字)